

東京大学大学院人文社会系研究科  
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣  
帰国報告

最終報告提出日 平成24年10月4日

**基本情報**

氏名：嶋田吉朗

所属先：社会学研究室修士課程 1年

派遣形態：個人派遣

研究課題名：日独比較で見る結社を介した地域リーダーネットワークの機能の解明

**派遣先での活動**

(1) 派遣先の基本情報

国名：ドイツ

都市名：ハレ

研究機関：マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク

(2) 派遣期間

平成24年7月12日～平成24年9月22日、総日数72日

**主な研究成果**

(1) 当初の計画の概要

本研究は、日独の地方都市を事例とし、そこで行われてきた地域リーダー層の様々な結社とそれを通じた市民のネットワークの構造、機能とその歴史的変遷を、インタビューを含む様々な調査によって社会的に解明することを目的とするものである。

今夏の調査では、(1)ドイツにおける既存研究のフォローと(2)ドイツ・ハレ市の地域リーダーが参加する結社（ハレ商工会議所、ハレ青年会議所、ハレ市民財団など）についてのインタビューと資料収集を通して、対象についての知見を深めることが目指される。

(2) 実際に達成された成果

調査に際しては東ドイツと日本の市民社会に詳しいハレ大学日本学教授のフォーリヤンティ＝ヨスト教授のアドバイスを受け、ハレの結社数など貴重な統計データも入手した。また、ハレ大学の図書館を利用し、社会学のみならず歴史学分野の都市の結社活動に関する先行研究のフォローも予定通り行うことが出来た。

その上で、ハレのエリート、リーダーが市民活動を行っている場として、青年会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ハレ商工会議所、ハレ市民財団という5つの結社

組織を主な対象として定め、入手可能な出版物を収集すると共にそこで活動する計 7 名に対してインタビューを行った。人数には限界があったものの、内容は組織の活動に関するものから個人のこれまでの経歴、市民活動全般、ネットワークにいたるまで広範におよび、ハレのエリートによる市民活動をとりまく社会構造への理解が深まった。ライオンズクラブに関しては会合に同席する機会も得、より深く踏み込んだ調査への可能性が広がった。さらに فرانケ財団、Freiwilligen Agentur といった、ハレの市民社会で重要な役割を果たしている組織についても関係者への聞き取りなど一定の情報収集を行った。

インタビューから示唆された、大学を取り巻く文化的エリートや東西統一後に西側から移ってきた管理職が築いてきたネットワークなどの特徴的なネットワークの存在と、それが公共的な目的を持った結社を通じてより複雑に交差していくダイナミクスは、今後都市の比較を行う上で重要な論点となるだろう。この知見を生かしてさらに精緻なデータ収集と分析を目指したい。

### (3) 今後の研究展望

收拾した文献や先行研究についてはまだ全てを整理できていないので、出来るだけ早急に論点を整理し、報告者の研究の位置づけをはっきりさせたい。

インタビューを中心とした今回の調査は地方都市上層/リーダー層の市民社会領域における活動とその社会的機能を明らかにする上で重要な第一歩となったが、地域全体の構造と関係付けてさらに高次の分析を加えるためにはより多くのデータが必要となる。特にネットワークに関しては調査対象者によって聞き取れた範囲にムラがあり、今後は量的なアプローチも視野に入れるなど方法的な洗練も目指すとともに、より多くの対象に対する継続的な調査によって修士論文の水準に耐えうる厚みあるデータを積み上げていきたい。